

お手玉の数え歌

2月にイギリスにいる孫の所へ子守に行くさい、日本のお手玉を持っていく予定です。  
たまたま 80代半ばの友人に会う機会があったので、  
「昔、お手玉で遊びながらどんな歌を歌われていましたか？」  
と聞いてみました。すぐに歌ってくださいました。

一列らんぱん破裂して  
日露戦争始まった  
さっさと逃げるはロシアの兵  
死んでも尽くすは日本の兵  
5万の兵を引き連れて、  
6人残して皆殺し  
7月8日の戦いに  
ハルピンまでも攻め寄せて  
クロパトキンの首をとり  
東郷大将万々歳

この方は、小学校時代に太平洋戦争を経験されていたのです。

帰宅して夫にその話をしたところ、3行目まで歌えました。義姉たちが歌うのを聞いて  
覚えたそうです。その先輩も夫も初めの「いちれつらんぱん」のところが何を言っている  
かわからないと言いました。東京で育った友人も金沢近郊で育った夫の姉たちも同じ歌を  
歌っていたのですね。中勘助の時代には「お馬の乗り換え、お籠の乗り換え」と歌ってい  
たそうで(『銀の匙』)、私の子供時代には「おひとつ…、おふたつ…、おみんな…」と歌  
っていました。地域ごとに違っていたのですね。「一列らんぱん」のように国中の子供た  
ちが同じ歌を歌っていたというのは政府主導ですね。インターネットで調べたら、冒頭の  
言葉は「一列談判」だそうです。でも「一列」って何？

クロパトキンはこの歌では戦死したことになっていますが、奉天の会戦の後第一次大戦  
後も生きて、1925年に亡くなるまで著述に専念したのだそうです。日露戦争は1905年に  
終わったのですから、それから30年、40年たっても、日露戦争で勝利した(勝利したとは  
一概には言えないそうですが)ことが、日本の歩みの基礎、土台と考えられて、まるで昨日  
起こったことであるかのように子供たちが歌っていたことに気が付きました。

(2018年12月28日 律)